

患者さんと思いをひとつに、 サポートを続けたい



富山県射水市にある真生会デンタルクリニックは、真生会富山病院の歯科として1995年に開院、2014年に病院から独立しました。「笑顔のあふれる医院」を目指し「利他の精神」を大切に、患者さんにいかに満足していただけるかを意識して、日々の診療に取り組んでいます。今回は患者さんに寄り添った診療を心がけ、クリニックの主任を務める男性歯科衛生士の鈴木渉さんにお話を伺いました。

先輩の導きで歯科衛生士の道へ転身

私は、元タインテリアコーディネーター志望で、4年制の大学に進学しました。しかし、徐々に自分の目指すものとのギャップを感じるようになり、進路に迷いが生じたのです。

そんな時、真生会富山病院に就職した大学の先輩から「とても良い環境だ」と教えていただき、興味を持ちました。それまで医療の道は考えたこともありませんでしたが、先輩の言葉を頼りに病院見学会に参加してみることに…。すると、スタッフの皆さんが笑顔で親切で、とても温かい雰囲気を感じました。それを機に「ここで働いてみたい」と考えるようになったのです。

当時、真生会富山病院では色々な職種を募集していて、その中に歯科衛生士の募集もありました。私はこの時、初めて歯科衛生士という職業を知ったのですが、歯みがきは小学生の頃から習慣化していたこともあり、歯のことなら自信を持って伝えられるのではないかと思います。歯科衛生士への道を志してみようと決め、歯科衛生士学校へ入学しました。当院で働きたいという強い思いと、現院長の後押しもあって、周りが女性ばかりの専門学校生活も、さほど苦にはなりませんでした。

患者さんの「ありがとう」が仕事の原動力

当院には合計20名のスタッフが在籍しており、そのうち歯科医師が3名、歯科衛生士が10名です。チェアは12台に車椅子専用チェアが1台あり、1日に60～80人ほどの患者さんが来院されます。19:30まで受付を行っていることもあり、「仕事が終わった後でも診てもらえる」とご好評いただいています。また、真生会富山病院と併設しているため、病棟からの依頼を受けて入院患者さんの診察を行うこともあります。



当院の歯科衛生士は非常に勉強熱心で、講習会や学会等に定期的に足を運んだり、院内で症例発表会を行ってディスカッションしたりと、刺激的な環境です。私も現在、日本歯周病学会認定歯科衛生士資格の取得を目指して頑張っています。



入職から今年で9年目になりましたが、ここまで続けてこれたのは、院長先生をはじめとするスタッフの支えと、患者さんからの「ありがとう」の言葉がとても励みになったからだと思います。

嬉しかったことと言えば、入職してまだ1～2年目の頃、歯みがきが苦手な小学生の女の子を担当したことがあり、その子に歯みがきの仕方を伝えた後、お母さんからお礼のメールをいただいたことです。「なかなか歯みがきをしなかった子が、今は鏡の前で一生懸命みがいている。ありがとうございます」という内容で、とても感動しました。

患者さんと歯科衛生士、両者の思いをひとつに

医療従事者の役割は、患者さんが自分自身の力で良くなっていくことを全力でお手伝いすることです。そのために特に大事な点は、患者さんがどのような思いで来院されているのか、本心を正確に把握すること。そして歯科専門職としての見解を丁寧に分かりやすく伝えることだと考えています。

私は常に患者さんに寄りそえるサポーターでありたいです。患者さんと私たち、両者の思いがひとつになって同じ方向を目指すことで、治療・メンテナンスは上手くいくのだと思います。

患者さんの「ありがとう」という笑顔のため、歯科衛生士としての知識やスキルは勿論のこと、感性や人格もみがいていけるよう、精進していきたいです。